

平成 21 年 4 月

元日に剃られ去年の不精髭  
着飾れどどこかむなしい金亀子  
聞き上手ほうほうといふ梟は  
利き耳は左右のいずれ春の雷  
季語になりそこねて拗ねる竹とんぼ  
既製品ばかりで死語の毛糸編む  
機智機智と飛んでばつたの駄洒落好き  
昨日まで猫を被りし恋の猫  
着膨れて積極性のちぢこまり  
木偏に春椿は春の花だから  
気前よくメタボリックな鏡餅  
窮屈をものともせずに紙魚の恋  
曲目はふるさと楽器は草笛で  
虚脱とは縄跳びをへし縄のこと  
切り分ける音より迅く林檎の香  
金魚のをらぬガラスの鉢のがらんどろ  
句心の失せ探梅のけもの径  
串の字は象形文字よおでん食ぶ

くたびれるなどとセータを擬人化し  
首まげて見る赤い羽根挿さるるを  
雲の峰ふくれ面をしてをりぬ  
群衆のAとなりきるマスクかな  
経過報告的季語にやあらむ七変化  
激やせにして剪定の仕上がれり  
月光を微塵に碎き冬の海  
決断力炬燵抜け出すときに要る  
毛虫前進キャタピラのやうにかな  
毛虫らの葉を喰ふ音のにぎやかに  
家来など持たず殿様ばつた飛ぶ  
玄関の鍵をまさぐる虫の闇